

## 令和7年度 第1回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和7年5月19日（月）午後3時00分から午後5時00分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員12名

：富谷市10名

：事務局5名

：オブザーバー（日吉台中学校生徒）2名

### 1 開会（司会：企画部長）

### 2 市長挨拶（若生市長）

皆様、お疲れ様でございます。本日は大変お忙しいところ、令和7年度第1回富谷市総合計画審議会ということで、ご出席をいただきましたこと心より御礼を申し上げます。また、審議会委員の皆様におかれましては、日頃から市政運営全般についてそれぞれのお立場からご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますこと、改めてこの場をお借りして心より御礼申し上げたいと思います。そして、富谷市におきましては、先ほどご紹介がありましたように「子どもにやさしいまちづくり」を進めておりまして、こどもの権利、こどもの声を最大限市政に反映させていくということで、この最上位計画であります総合計画の審議会におきましても、今回は日吉台中学校のお二人にご出席いただいております。改めて感謝申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。

さて、いよいよ令和7年度がスタートしたところでございます。今回、七十七銀行の成澤支店長に新たに審議会の委員として就任いただきましたが、その他の皆様におかれましては、昨年度に引き続き、審議委員ということでございます。令和6年度は新総合計画の策定に向けて基本構想について委員の皆様から様々なご意見をいただいていたところでございます。また、令和6年12月から令和7年2月にかけて富谷市の未来について考える市民ワークショップも開催して、この総合計画の基本構想、基本計画に向けて、市民の皆さんの様々な声を直接いただいていたところでございます。まずは基本構想を確定させていきながら、併せて、今後は国土利用計画、そして最終的には基本計画の策定という形で進んでまいります。いよいよこの令和7年度中に、最終的には基本計画まで策定をしていくこととなりますが、令和8年度からこの新総合計画はスタートいたしますので、令和8年度の市政、予算と事業計画等は新しい総合計画に基づいてスタートしなければならないと考えております。そういう意味では、この令和7年度は非常に大事な年度になると思っております。審議会の委員の皆様はそれぞれ本当に多忙ではございますが、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

それから、若干お時間をいただきまして、現在の富谷市の大きな課題である総合病院の誘致についてお話しします。当初、宮城県が示した病院再編構想におきまして、富谷市へ東北労災病院と県立精神医療センターを合築し移転するということが、基本確認書を宮城県と東北労災病院で取り交わし、前向きに富谷市への移転が進んできていたところでございましたが、県立精神医療センターが色々な事情があって名取市への建替えに変わりました。その後、東北労災病院が単独での富谷市へ移転ということで検討、協議を続けてきたところでございましたが、皆様、報道等でご覧いただいているとお

り、先々週の9日に東北労災病院の運営母体である労働者健康安全機構の本部の大西理事長が宮城県庁に訪問して、村井知事に直接富谷市への移転断念について申し入れがあるということで、私も同席するよという話があり、同席をいたしました。理事長も話しておられましたが、当初は前向きに富谷市への移転を前提として協議に参加をしてきたわけですけれども、想定外だったのがやはりコロナ禍の影響ということでございました。労働者健康安全機構が運営する病院は、コロナ禍によってグループ全体の財政状況が厳しくなり、特に東北労災病院はかなり財政状況が厳しく、富谷市へ移転する移転費用を確保することが困難になったということでございました。最終的には村井知事も私も、事情が事情であるので如何ともしがたい、受け入れざるを得ないという状況でございました。期待してくれていた富谷市民の皆様に対しては本当に申し訳なく思いながらも、移転断念を受け入れざるを得なかったというのが事情でございます。

ただし、皆さんご承知のとおり、黒川地域には救急・急性期を担う総合病院が無く、搬送時間が県内でも長く掛かっているという中で、搬送中に心肺停止になって命を落とす方がいるということで、そのことを聞くたびに我々は胸を痛めてまいりましたし、総合病院が近くにあれば救われたかもしれないと思いながら日々過ごしておりましたので、やはり今回の東北労災病院の移転が無くなったからといって諦めるわけにはいかないと考えております。

そして何と言っても、総合計画を策定する前に市民アンケートを行っておりますが、市制施行に併せて総合計画を策定する時の市民アンケート、前期計画から後期計画に変わる時の市民アンケート、そして今回の新総合計画を策定するにあたっての市民アンケートにおきましても、必ず上位にくる意見、求める施設が救急・急性期を担う総合病院の設置でございます。あとは、基幹公共交通ということでございますが、そういう意味では、総合病院は皆様の何よりも大事な生命と健康に関する課題でございますので、何とか解決に向けて、ここで諦めるわけにはいかないと考えております。9日に申し入れを受けた後にすぐに市役所に戻りまして、市役所内における最終政策機関であります政策企画会議をすぐに開催し、やはり総意でこのまま諦めるわけにはいかない。であれば、公募による誘致を継続していこうということで決定し、同日に議会の全員協議会がありましたので、そこで議会の皆様にも説明し、公募による病院誘致を進めるということでご理解をいただいたところです。そして、富谷のみならず、黒川地域の3町村も同じ課題として捉えていることございまして、元々この病院再編の話が出た時にも、富谷・黒川地域の4市町村長で要望活動を行ってきたという経緯もありましたので、週明け12日には4市町村長で村井知事のもとへ訪問し、6月を目途に公募を行いたいので、継続して宮城県にご支援をいただきたいと申し入れをしてきたところでございます。そういう意味で、継続して進めていきたいということを、まずはご理解をいただければと思います。「黒川病院に急性期病床を追加すれば良いのではないのか」であるとか「新しく市民病院を作ったら良いのではないのか」といったような質問をいただきましたが、ここにいる皆様はご理解いただいていると思いますけれども、富谷市は仙台市を含む14市町村で構成されている仙台医療圏に含まれておりまして、この仙台医療圏における急性期病床は本来よりも2,000病床以上、既に過剰な状態にあります。そして、そのほとんど、8割以上の病床が仙台市内に集中している状況になっています。ですので、宮城県はやはりバランスをしっかりと取るべきだ、このままだと過剰な仙台市内の総合病院間で競争が激しくなってくる。既に競争が厳しくなっている状況があるわけですので、それを潰さないように南と北に再編しようというのが今回の構想でありましたが、今回はそれがうまくいかなかったということでございます。ですので、新たに総合病院は作ることはできない。仙台医療圏にある、いわゆる急性期病床を有する病院でなけ

れば、今回の公募には参加できないということでございますので、そういう意味では大変厳しい状況に変わりはないわけですが、やはり市民の皆様のためには、諦めないでしっかりと進めていきたいと思っておりますので、ここでお時間をいただいてご報告させていただきました。と言いますのも、この問題が出てから報道関係が過熱しております、皆様が不安に思っている、先週からあらゆる市民の皆様が集まる会合では、必ずこのことを説明するようにしておりますので、どうかご理解をいただければと思っております。

特に総合計画審議会の委員の皆様におかれましては、これからの総合計画づくりの背景にも、やはりこの病院問題というものは欠かせないわけでございますので、ご理解をいただければと思っております。引き続き、何とか富谷・黒川地域4市町村一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、ご理解賜りたいと思っております。若干、話が長くなってしまいました。

本日も風見会長のもと、総合計画審議会どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 会長挨拶（風見会長）

皆さん、こんにちは。新緑の美しい季節になりまして、また皆様とお会いできるのを楽しみにまいりました。新年度初めての審議会でございますのでご挨拶をさせていただきます。私事ですが、3月24日に宮城大学教授としての最終講義と記念祝賀会を開催いたしました。当日は若生市長にご祝辞をいただきました。大変心温まるご祝辞ありがとうございました。また、行政の皆様にもお越しいただきましたが、特に富谷市においては、副市長をはじめ、この総合計画審議会委員の中からも多数の方にお越しをいただきました。大崎市など他市町村の方もお越しいただいたのですが、産官学民多彩な参加者のテーブルは富谷市だけだったと思えました。まさにこれは私のこれまでの道のりと言いますか、試みの現れでもありますし、富谷市の市民力の表れではないかと思えました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。宮城大学の理事、副学長を6年ほど務めており、3月で退任いたしました。新たに参与という役職を作ってください、先日、名誉教授もいただきまして、宮城大学のためにもうひと頑張りしようと考えております。特に富谷市においては、若生市長と二人三脚で走ってまいりましたし、この総合計画を扱う審議会の会長でもありますので、ひたすら、またひときわ富谷市の未来のために頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

若生市長からお話があったとおり、総合病院に関する報道が大変過熱しておりましたが、若生市長からのご説明で皆様安心されたと思っております。これからの方向性として医療の均衡は当然のことです。周辺の市町村長としっかりと連携を取られて、県民の理解を深めながら進めていただけると確信しておりますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

また、本日は仕上がってまいりました基本構想についてご審議いただくわけですが、基本構想を改めて読み返しますと、富谷市の特徴は、何と言っても3つありまして、1つ目は、市民力だと思っております。本当に若い市民力が、老若男女と言っても良いと思っておりますが、高齢の方から若手まで男女を問わず大変活発に活動されております。地域主体のまちづくりということで、ぜひ市民力を基本構想の中の柱にしていきたいと考えております。2つ目は、田園都市ということです。富谷市はこの新緑の時期はなおのことガーデンシティとしての美しさが際立ちます。都市と自然、人間と自然との融合ということで富谷市では田園都市を掲げておりますが、トップランナーとして政府からも大変注目されていると思っておりますので、引き続きこの実現に向けてまとめてまいりたいと思っております。3つ目は、やはり子どもと未来ではないかと思っております。先日、この審議会に先立ちまして円卓会議を開催し、市長と私、



## 4 議事

### (1) 第2次富谷市総合計画・基本構想案について

#### (風見会長)

それでは、議事の1つ目、(1) 第2次富谷市総合計画・基本構想案について、事務局から説明をお願いします。

#### (事務局)

それでは、第2次富谷市総合計画基本構想案についてご説明させていただきます。資料1をご覧ください。こちらは、前回の審議会においてお示ししました基本構想案について、委員の皆様のご意見を踏まえ、修正したものでございます。委員の皆様からいただいたご意見の反映状況につきましては、資料2として配付させていただいております。会議時間の都合上、一つひとつの説明は割愛させていただきますが、後ほどご覧いただければと思います。また、具体的な取組へのご意見につきましては、今後ご審議いただきます基本計画案へ反映してまいりたいと考えております。

それでは、1ページをご覧ください。修正箇所につきましては、赤字表記としております。(1) まちづくりの将来像でございますが、まず、年数の表記について、人口が60年以上増え続けているということがわかりやすいように、和暦に西暦表示を追加いたしました。また、3行目以降の本文につきましては、現状に合わせて内容を修正しております。

2ページをご覧ください。(3) 基本理念につきましては、基本目標の内容と合わせる形で文言整理しております。(4) まちづくりの柱と基本目標につきましては、本文の下から2行目の「誰もが住みたくなる」の後に、住んだ後には住んで良かったと思っただけのようにということで、「住んで良かった」を追加いたしました。また、まちづくりの柱の3つ目、「子どもにやさしく誰にでもやさしいまちづくりの推進」の子どもの表記については、基本目標等と合わせまして、ひらがなの「子ども」といたしました。また、「子どもにやさしいまちづくり」などの固有名詞につきましては、そのままの形で表記させていただいております。それから、基本目標2の分野について、都市基盤ということで、公共交通・道路・公園・住環境・上下水道としておりましたが、4番目の住環境については、この分野すべての項目が含まれると考えられますことから、「住環境」を「住宅」に修正しております。

3ページをご覧ください。こちらには、3つのまちづくりの柱の説明文を追加いたしました。まず、「未来につながる持続可能なまちづくりの推進」については、「持続可能なまちづくりとは、誰もが安全で快適に暮らし続けられる都市やコミュニティを実現するものです。具体的には、災害に強いインフラの整備や地球温暖化による気候変動への対応、再生可能エネルギーへの転換、多様な人々が共生できる社会の実現などの取組があります。環境資源は有限であるという前提に立ち、それらを適切に管理することにより、経済活動や社会が長期的に維持されると考えられています。身近な地域社会においても、生活を維持していくためには、環境と経済の両立が不可欠であり、市民、事業者、行政などが協働して、本市が掲げる将来像や基本目標の達成に取り組むことにより、未来につながるサステイナブルなまちづくりを推進します。」といたしました。次に、「緑豊かな自然と魅力ある都市が調和した田園都市の実現」については、「本市は、49.18 ㎢というコンパクトな市域の中に、古くからの田園地帯や森林を保全する一方で、新興住宅地や商業地を拡大させ、豊かな自然の中に、生活環境の整った良好な市街地を形成することで、多くの人々が豊かに暮らせる、田園都市構造を形成してきまし

た。これからも将来像の実現に向けて、田園都市構造をさらに発展させ、緑豊かな自然と魅力ある都市が調和した持続可能な田園都市の実現を目指します。」といたしました。次に、「こどもにやさしく誰にでもやさしいまちづくりの推進」については、「本市では、「こどもはまちの宝」として、こどもの権利を守り、こどもが安心して暮らせる環境づくりを目指して、「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」を行い、ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体として全庁挙げて「子どもにやさしいまちづくり」を進めてきました。この取組は、こども・子育て支援や学校教育の更なる充実を図るとともに、こどもの目線で物事を考え、こどもも大人と一緒にまちづくりを行う主体・当事者として、こどもの意見を市政へ反映するなど、「子どもの権利条約」に基づいたものです。今後とも、より一層市民と共に「子どもにやさしいまちづくり」を推進し、こどもから高齢者まですべての市民の声や想いをまちづくりに生かし、誰もが幸せを感じ生き生きと暮らせる、誰にでもやさしいまちを目指します。」といたしました。

4ページをご覧ください。4ページ以降につきましては、まず、前回の審議会において、1つの文章が長くて内容が伝わりにくいのではないかとのご意見をいただいておりますことから、全体として文章を短く、読んでいただく方に伝わりやすいように修正をいたしましたので、この修正に係る説明は省略させていただきます。まず基本目標1の1段落目についてですが、「半導体をはじめとした製造業の企業などの誘致を展開する」としていたところを、委員の「市民の皆さんが色々な選択肢が持てるような多様な雇用機会の創出が市として目指すところではないか」というご意見を踏まえて、赤字のとおり「誰もが市内で働きたくなる多様な企業の誘致を積極的に展開し」といたしました。また、「質の高い雇用」としていたところを、わかりやすく「魅力ある雇用」といたしました。次に、2段落目の「起業・創業・農業」と3段落目の「観光・特産品」の部分については、審議会や市民ワークショップの中で、「人を呼び込むためには今ある地域資源を生かした富谷ならではのものがあると良い」という意見が多く聞かれましたことから、2段落目を「地域性を生かした起業・創業や農業に」とし、3段落目にも地域資源の前に例としてわかりやすく「歴史・文化などの」という文言を追記いたしました。

次に基本目標2につきましては、右に記載されている施策項目のうち、(3) 道路・(5) 住宅・(6) 上下水道に関する部分を、3段落目のまた以降の部分になりますが、「また、快適で住み心地の良い住宅地の整備や誰もが利用しやすい道路ネットワークの充実・強化を図り、日常生活の利便性と安全性の向上を図ります。併せて、安全・安心な水の安定供給と衛生的な水環境を維持するため、適切な上下水道施設の維持管理に取り組みます。」と追記いたしました。

5ページをご覧ください。基本目標3の2段落目でございますが、「子どもにやさしいまちづくり宣言」の内容を踏まえ、冒頭に「こどもの権利が保障され」を追記しております。また、委員の「子どもたちは一人ひとり色々な考えを持っていて、周りに支えられるだけではなくて、自分でそれを発信して、一人の市民として市に貢献することができる力がある」というご意見を踏まえ、「まちの活動に活発に参加できるよう、こどもの意見を市政へ反映させるとともに」と追記いたしました。続いて、次の行の「加えて」以降の部分になりますが、「誰もが働きながら安心してこどもを産み育てられる」としていたところを、子どもを産み育てる前の段階を含めた形で「若者や子育て世帯が安心して、結婚・妊娠・出産・子育てが行えるよう」と修正し、親だけでなく子どもの幸福感も向上させることができるようなまちを目指すという観点から、「親子のウェルビーイングが向上する「子育てにもやさしいまち」を目指します」といたしました。次に、最後の段落になりますが、こちらには本市の学校教育

の特徴である学び合いの学習や調べる学習の推進、国際理解教育などについて追記するとともに、市民ワークショップにおいても個々に合わせた多様な学びの場が必要とのご意見がございましたので、「多様な学びの場の提供」と追記しております。また、審議会では、「子どもの頃から自分も地域の一員であると自覚し、地域の活動に進んで参加することが大切である」というご意見や、ワークショップにおいても「地域と学校の連携強化」についてのご意見がありましたことから、地域を知り、活動に参加することが地域への愛着へつながるという点から、「家庭・地域・学校・行政が連携した学校づくりに取り組み、豊かな心と富谷への愛着を育みます」といたしました。

次に、基本目標4でございます。1段落目については、委員の「地域の中で支えたり、支えられたり、信頼やネットワークといったつながりが地域で暮らしていく安心につながる」というご意見や、市民アンケート調査においても、富谷市の目指すまちづくりの方向性についての設問において、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち」が2番目に多かったことなどから、「誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らすためには、みんなで地域を守り、育み、支え合うことができる環境づくりが大切です」と追記いたしました。また、「支えられることが必要になった時に自分で助けてと言えるようにすることが重要」、「普段から大変な時に助けてと言える関係性を築くことが大事」という委員のご意見を踏まえて、4行目に、「人と人がつながり、誰もが困った時に相談できる」と追記いたしました。次に3段落目でございますが、委員の「地域への愛着を持っていることが、その地域で暮らすことへの活力や健康にもつながる」というご意見や、ワークショップでも「自分の力を発揮できる場所や、多世代が交流する機会があることは生き生きと暮らすことにつながる」というご意見などがございましたことから、最後の段落に「誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会や世代間が交流する機会などを充実することで、心と体の健康維持や地域で暮らす活力の創出に取り組みます。」といたしました。

6ページをご覧ください。基本目標5については、冒頭の「多発する大規模災害」としていたところを、想定される災害について詳しく記載いたしました。また、右側の施策項目ごとに、防災、救急・消防、防犯・交通安全の分野順に段落を分けて本文を追記し、整理いたしました。また、最後の段落になりますが、年齢・性別・国籍に加えて、「心身の状況、社会的・経済的な状況の違い」を追記しております。

次に、基本目標6でございます。1段落目でございますが、市民ワークショップでの「ゼロカーボン」を推進するためには、市民へゼロカーボンにつながる行動の知識醸成が必要だ」という意見を踏まえ、赤字部分の「継続的に市民への普及啓発活動に取り組むことにより」と、市民一人ひとりの地球環境問題に対する意識を向上させるための取組を明記いたしました。また、こちらも右側の施策項目ごとに、分野順に段落を分けて本文を整理いたしました。そして、最後の段落でございますが、委員から「緑は心と身体の健康を整える効果がある」というご意見がございましたので、下から2行目の季節の彩りの前に「緑や」を追記いたしました。

7ページをご覧ください。基本目標7でございますが、まず、右側の施策項目について、(2) 市民参加と(3) 市民協働をまとめて一つの項目とし、(4) としていた官民連携に多様な協働を加えて一つの項目といたしました。そして、こちらも施策項目ごとに、分野順に段落を分けて本文を整理いたしました。また、委員から「これから基本目標全部に取り組んでいくとなると、今以上に市民力が重要になってくるので、行政で取り組みたいことを市民の皆さんに理解していただく機会がもっとあれば、市民力もアップしていくのでは」というご意見がございましたので、上から2行目に「開かれた市政を

推進することにより、富谷をさらに知り、富谷を愛する市民を増やします」といたしました。そして、市への愛着や地域への誇りを持った方が増えることにより、市民が主体的に活動し、市民力を発揮することができる「市民が主役のまち」につながっていくと考えております。次に、下から2行目の赤字部分になりますが、委員より、「施策の中にもっとデジタル活用を取り入れても良いのではないか」というご意見がございましたので、「各分野においてDXを取り入れ、市民サービスの向上や効率的な行政経営に取り組みます」と追記いたしました。具体的な施策については、今後、基本計画の中で検討してまいります。

8ページをご覧ください。8ページ以降に新しい項目として、将来人口と土地利用の構想を追加しております。こちらにつきましては、総合計画と並行して策定を進めております人口ビジョンや国土利用計画に関する部分になりますが、総合計画審議会条例の第1条において、「市長の諮問に応じ、市が定める総合計画に関する事項を調査審議する」と定めておりますことから、人口ビジョンや国土利用計画についても総合計画に包含される位置づけとし、今後、審議会においてご審議いただくこととなりますので、どうぞよろしく願いいたします。

改めて8ページでございますが、将来人口といたしまして、本市がまちづくりの将来像として掲げております「100年間ひとが増え続けるまち」を実現するため、今後も積極的な子育て支援の推進や、企業立地の推進などによる多様な雇用の創出等に取り組むことにより人口増加を目指し、2060年の目標人口を60,000人としております。これから人口ビジョンについても推計を進めていくこととなりますので、進捗に合わせて10年後の人口フレームなどを追加してまいります。

9ページをご覧ください。こちらは、土地利用の構想を入れてございます。現段階では、現在の国土利用計画における基本理念と基本方針を記載しておりますが、この後ご説明いたします第2次国土利用計画の策定に合わせて、内容の修正等を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。説明は以上でございます。

#### (風見会長)

はい、ありがとうございます。只今のご説明に関するご意見については、後で委員の皆様から一巡でご意見をいただきますのでまとめていただければと思います。今この場でご質問があれば伺いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

## (2) 第2次富谷市国土利用計画について

#### (風見会長)

それでは、議事の2つ目、(2) 第2次富谷市国土利用計画について、引き続き事務局から説明をお願いします。

#### (事務局)

それでは、資料3をご覧ください。第2次富谷市国土利用計画の策定についてご説明いたします。

第2次富谷市国土利用計画は、令和8年度から令和17年度の10年間の計画を策定するものでございます。国土利用計画とは、国土利用計画法第8条に基づき、市の区域において、長期的に安定した土地利用を図ることを目的としております。市土の利用に関して、必要な事項を定め、市土の総合的、計画

的な利用を図る上での指針とするものでございます。現行計画の第1次富谷市国土利用計画につきましては、平成29年度に策定し、令和5年3月に一部変更しております。計画期間が平成29年度から令和7年度の10年間で、今年度が目標年次として最終年度となっております。第2次富谷市国土利用計画につきましては、令和8年3月策定として、令和8年度から令和17年度までの10年間の計画として、目標年次となる17年度までの市土の総合的、計画的な利用を図る上での指針となる計画でございます。右の図をご覧ください、計画の位置づけとして、真ん中に富谷市国土利用計画がございます。市町村の国土利用計画につきましては、都道府県計画を基本とするとされておりますので、宮城県の国土利用計画を基本としながら、基本構想に即した計画として位置づけております。

裏面をご覧ください。第2次富谷市国土利用計画の方向性でございます。方向性としては、現行計画を踏襲し、先ほどご説明しました基本構想と一体性を図りながら、基本理念・基本方針等について、国・県の計画、本市のトレンドに合わせて策定いたします。構成案につきましては、現行計画を踏襲して、大きく3つの項目を予定しております。市土の利用に関する基本構想、市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及び地域別の概要、本計画を達成するために必要な措置の概要に関する内容でまとめる予定としております。主な改定内容について3つ記載しております。1つ目は、土地利用の構想図について変更する予定でございます。お手元に現行計画を配布しておりますが、最後のページに本市の土地利用構想図が掲載されております。構想図をご覧くださいまして、図の真ん中あたりに丸くピンク色に塗られたところがございますが、こちらが現在整備を進めておりますが、成田二期北の工業用地でございます。すぐ下の北部道路沿いに横にピンク色に塗られた箇所が、成田二期西と東の住宅地として整備を進めている箇所になります。こちらの構想図について、第2次の計画では、一番左側の黒色で縦に走っている線が国道4号でございます。国道4号沿いについて、商業用地への転換を含めて、土地利用の促進として、目標年次となる令和17年度の構想図の色塗りの変更を予定しておりますので、宮城県の計画との整合性を図りながら、進めていきたいと考えております。

資料3に戻りますが、改定内容の2つ目、市土利用上の諸課題について、今後、顕在化しつつある課題を整理しながら、3つ目に記載しておりますが、基本方針への新たな項目の追加や内容の充実として、高齢化への対応、自然環境保全、多様な主体と連携した市土利用、デジタル技術の徹底利用といった点を主に加えることにしております。

続いて、策定のスケジュールでございます。現時点での予定になりますが、本日の審議会の後に、6月以降に、先ほどご説明した構想図のベースとなる転換図について、県との協議を行う予定でございます。また、8月に予定しておりますが、第2回審議会で国土利用計画案をお示しして、ご意見をいただきながら、宮城県との2回目の協議も行い、11月にはご意見を反映した計画案を第3回審議会、議員全員協議会でお示しした上で、パブリックコメントを実施する予定でございます。令和8年2月には第4回の審議会でお示しをいただき、3月の議会に上程して、計画の策定といったスケジュールを進めたいと考えております。資料3につきましては、説明は以上でございます。

#### (風見会長)

はい、ありがとうございます。若干私からも補足しますと、資料3の1ページご覧いただくと、国土利用計画は全体の全国計画から始まって、この富谷市の国土利用計画があるということです。一方で、点線で囲んであるところが市町村になります。市町村としては総合計画が最上位の計画になりますので、そこでちょうどクロスしているわけです。本来は別々の計画でもありますがけれども、まさにこの

基本構想とも大きくリンクしてあります。そして先ほど申し上げたとおり、ビジョンがあって、プランがあって、デザインがあるということになります。そのデザインの部分がちょうど国土利用計画の下にある都市計画マスタープランであり、ランドデザインと言っていると思いますが、それぞれの政策に落とし込んでいくということになります。国土利用計画は総合計画審議会の中で一貫して議論をさせていただくということになり、最終的には政策に落ちていくということをご覧いただければと思います。

また、資料3の裏面にスケジュールがありましたけれども、8月に第2回総合計画審議会が予定されています。基本構想については、本日の審議会で概ね固めさせてさせていただいて、8月の審議会で答申をする予定です。それを踏まえて基本計画が8月の審議会に案が出てきますし、国土利用計画に関しては11月の審議会の時点で案が出てきますので、順繰りでしっかりと全体像が見えてくるということになります。その根幹である、一番の原点、一番のコンセプトである基本構想は今後の答申に向けて最終の段階になりますので、もう一度ご覧いただきご意見を伺いたいと思います

それから、議題1の基本構想に戻りますけれども、資料2に各委員の皆様からのご発言をまとめられており、それが基本構想に赤字で反映されているとご説明いただきましたので、大変わかりやすかったと思いますが、改めまして、もう一度読み返して気になる文言があればまだ間に合いますので、これからご意見をいただければと思います。

それでは、恒例ではございますが、こちらから時計回りでご意見をいただきます。阿部委員お願いします。

#### (阿部委員)

こんにちは。阿部でございます。只今、風見会長と事務局から第2次富谷市総合計画基本構想案と、国土利用計画の策定についてということで話がありましたけれども、前回の審議委員の皆さんからあったご意見が赤字で修正されているかと思えます。その中でも基本構想案の2ページ目、(4)まちづくりの柱と基本目標の3行目に「誰もが住みたくなる、そして住んで良かった」という文言が入っておりますが、これがやはり原点になるのではと私なりに思います。やはりこれが、実際に市民の皆さんに理解していただけるようになればと思うところがございます。それから、将来人口は令和42年、2060年に6万人を目標にというご説明でした。どうしても宅地を作るには山を削るような形になると思います。今、窓から見えている緑が無くなってしまふといった部分もあるとは思いますが、それに対しては色々と法律もあると思いますし、市政の考え方に団地の中に必ず植栽を入れるといったことも確かあったと思いますので、そういったことも街並みの1つとして、計画の中にあるべきなのではないかと思えます。あとは、工場を誘致することになれば、それに対して住宅の計画も必要になるかと思えますが、宅地の部分は概ね埋まってきている状況になってきていると思いますので、造成の計画等もあればと思います。わかりやすく言えば、住みたくなるまちがあれば、本当に住んで良かったとなるので、これが一番の原点なのかなと思ったところです。やはり工場の誘致、住宅だとなれば、今ある土地を削ったり盛ったりということも出てくると思えますので、そのあたりもししっかりと計画の中で、決め事として進めていければ良いのではないかと思います。ざっくりとした話で申し訳ありませんが、そのような形で進めてもらえればと思っております。

### (風見会長)

ありがとうございました。大変重要なお意見だと思います。方向については概ね良いと見ておられると思いますが、今お話がありましたように今後、新しい大規模な宅地開発が予定されてくるでしょうから、それに関しては私も危惧しております。ぜひ富谷市の中で景観の条例や景観計画のようなものをご検討いただければよろしいのではと、私も個人的に思います。田園都市という構想にふさわしい、そのような政策的な配慮を全庁でぜひご検討をお願いいたします。

今の阿部委員のご意見というものは皆さんの気持ちの代弁だと思いますので、美しいまち、本当に住み続けたいまちをしっかりと追求していくというご意見であったと思います。ありがとうございます。それでは、成澤委員をお願いします。

### (成澤委員)

よろしくをお願いします。初めての出席ということで変なことを言うかもしれませんが、よろしくをお願いします。基本構想ということで大局的なビジョンということになると思いますが、この内容についてはこれまで委員の皆さんからあったご意見をしっかりと反映して、ブラッシュアップしながらできたものかと思っておりますので、方向性について特段異論はございません。私なりに今回、審議委員を務めるということで市を中心に、県内の各市町村の総合計画を一通り眺めてみましたが、率直な感想としますと、やはり各市町村、似通った内容になっていると感じたところです。私の個人的な印象としては、富谷市は宮城県内の市町村の中でも、指折りのアグレッシブで魅力的な自治体であり、今後も成長が期待されるまちであると感じています。これまでの審議会でも出された意見だとは思いますが、そのアグレッシブさ、富谷市ならではの特色というところが計画の中にも反映されてくると他市との差別化であるとか、選ばれる富谷市につながるのではないかと考えています。このあたりを基本構想に反映させるということは当然難しいとは思いますが、今後詰めていく基本計画や実施計画においては反映していただければと期待している部分であります。

細かい部分になって恐縮ですが、基本構想の中身への意見としましては、どうしても変えてほしいということではありませんが、3ページのピンクの部分に「子どもにやさしく誰にでもやさしい」ということで「やさしい」が2回続いているので、どちらかの表現を変えても良いのではないかと感じたところです。2点目としては、この基本構想なり基本計画、総合計画を見る側の立場になって考えた時に、デザインの部分、視認性を意識して色使いなどを工夫すると、より見やすいものになるのではないかと感じております。最後に、ここからは感想になりますが、私は銀行員ということで転勤もありますので、色々な自治体で働く機会があります。現在は富谷支店長を拝命しておりますので、富谷市のことをよく知って、富谷市のことを好きになろうという意識を強く持って働いています。最後の人口展望で掲げておられた2060年に6万人という数字ですが、少子高齢化が進む時代においては決して簡単ではなくて、むしろ非常にアグレッシブな数字だと思います。私のように富谷地域で働く人もいれば、富谷市に住む人もいて、観光でいらっしゃる方もいると思いますが、一人でも多くの方が富谷市を好きになって、富谷市のファンになっていただくためには、どのような政策が必要になるのかというところは、この審議会での意見も非常に参考になると思いますので、ここにお集まりの委員の皆様と富谷市の職員の皆様と知恵を出し合いながら、そのあたりを進めていただければと思います。

### (風見会長)

ありがとうございます。本当にフレッシュなご意見ありがとうございます。フレッシュな気持ちでどんどん忌憚のない意見をいただければと思います。忌憚のないというよりは応援が大部分で大変ありがたく感じました。1つはアグレッシブなまちということで、これは若生市長とともに歩んできた道のりを本当に的確に表現いただいていると嬉しく思いました。市民力をしっかりと化学反応ではないですが、富谷塾も含めて色々なことをやりながら、市民力を結集してきた成果だろうと思いますし、やはりアグレッシブというところは確かにあると思います。それを言葉でどう表現するかは別にして、そのアグレッシブな側面を表現していただきたいということだと思えます。それについてはお話いただきましたとおりの基本構想ですと少し丸まった表現になってしまいますが、実は大分尖らせるように皆さんで考えてきておりました。次回以降は基本計画が出てまいります。私もいくつも総合計画審議会の会長をやっておりますが、同じようなものを作ることは当然良しとしませんので、基本計画をぜひ楽しみにしていただいて、その時に円卓会議で出された重点プロジェクトについてもこの場でまたご議論いただいて、しっかりと富谷市らしい独自性のある政策の柱が見えるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

これから自治体は競争の時代に入ると思いますが、これはあまり楽観的なことを言い過ぎてもとは思いますが、富谷市は人口6万人では少ないと思うぐらい、もっと成長するのではないかと私は勝手に思っております。今は人口増の目標を掲げることすら、ほとんどありえない時代に来ております。ただ逆に、誰がどういう街に住むのかという選択肢が広がってくる中では、アメリカではもう何十年も前に都市間競争が発生して、より良い街を作ったところが勝利するという、ゲームをしているわけではないので勝利ではないのですが、言ってみればあるべき姿、その街の魅力にふさわしいキャパシティになるということだと思えます。当然、適正規模があるので、多ければ良いという意味ではないのですが、6万人を目指せるということがどれだけ幸せかということだと思えます。6万人はとてもアグレッシブな数字だと思えますが、これを超えるような形になるのではないかなと思えます。

1点だけ、先ほど成澤委員からありました「やさしい」の文言ですが、事務局で検討いただけますか。

### (事務局)

ご意見を踏まえて検討します。

### (風見会長)

成澤委員はしっかり一言一言受け止めて見てくださっています。引き続きアドバイスをよろしくお願ひします。それでは、石井委員お願ひします。

### (石井委員)

まずこの基本構想ですけれども、非常に文章が読みやすくなりました。前回、増田委員から文章が長すぎるという意見があつて、それで文章が短く修正されて、すごくわかりやすくなったということが1つ。あとは皆さんの意見が反映されていて、前回も言いましたが、2ページにあるまちづくりの柱は、まさに富谷市ならではの視点が非常に大きく反映されておりますので、私としては尖ってきているなと思っております。

もう1つ、国土利用計画関係で言いますと、ここで利用計画の詳細を云々意見するような知識はま

だ持ち合わせていませんが、基本構想案の10ページに土地利用の構想があります。その中の④ネットワーク型都市構造の形成に「仙台市等の市街地に連たんして新旧さまざまな地域が存在する中で、各地点のバランス」とあります。これはまさにそのとおりだと思いますし、私も仙台から来ているという部分もあるのですが、やはり富谷市と仙台市は区別して考えられない部分も多くあると思います。つまり、もしかすると都市間競争、どちらに住むのかということはありませんけれども、競争でもあり共存でもあると思います。ですので、若生市長にお願いしたいことは、この地域の中でどういう役割を受け持つかという部分、時にはもちろん富谷市の中で考えつつ、時には黒川広域圏で考えつつ、時には仙台市とも考えつつ、様々な問題があるとは思いますが、そのあたりはコミュニケーションを取りながら、より良い、広い意味でのエリア構想というものを持っていくべきではと思っていますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

#### (若生市長)

コミュニケーションを取るようになります。

#### (風見会長)

ありがとうございます。まさしくコミュニケーションを取り続ける必要があると思います。協働も含めて共創という、一緒に作っていくという段階に入っていますので、そういう意味ではお互いの強みを生かすということだと思います。また、基本構想につきましても、石井委員からありましたとおり徐々に特徴づいてきたと思いますし、これから基本計画が出てくると、さらにしっかりとした具体性のある総合計画になるのではないかと期待しています。ありがとうございます。それでは、大川原委員お願いします。

#### (大川原委員)

キスケフーズの大川原です。よろしくお願いたします。今日は色々ご説明いただきましたが、皆さんの意見も反映されていますし、確かに文章も読みやすくなっていましたので、すごく良かったと思います。その中でも私の仕事柄、産業や観光の部分、特にこの魅力ある雇用というところは、やはり叶えていかなければならないという思いが強いです。当社で4号線沿いに作っている飲食店は今月末位にはほぼ出来上がり、来月契約をして、恐らくオープンは6月30日あたりということで色々進めております。それに加えて、並びにある旧タイヤ館の建物を買って、ロジスティックセンターという物流倉庫としてスタートして、更に何かに活用していきたいと考えています。そういったところを含めて雇用も増やせそうですし、実際に今飲食店の求人を掛けており、高校生の方も可という形で募集しているのですが、思った以上に反応が良く、若い17歳の方を含め20人位に応募いただいております。これは仙台ではなかなかありえない現象で、面接に来てくださる方もすごく良い人ばかりで、もちろん全員は雇えないのですが、そういった若い方、これまで採用してこなかった年齢の方を雇用することで、逆に新しい若手の考え方なども学んで、職場環境をより良くし、更に魅力ある雇用環境作りにも力を入れていきたいと思っています。

#### (風見会長)

はい、ありがとうございます。発展性のある話をありがとうございます。地元での雇用はとても大

事だと思しますので、ぜひ引き続きよろしくお願ひします。それでは、高橋委員お願ひします。

#### (高橋委員)

ざっくりと見た限り、特に大きく気になることはありませんが、以前の意見反映の中で「子ども」の表記について統一した方が良いのではという内容がありました。3ページの「子どもの権利条約」の「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」というところの「子ども」の「子」は漢字になっていますが、5ページの基本目標3の上から5行目、「こどもの権利が保障され」の「こども」の「こ」はひらがなになっています。同じ基本目標3の四角のところの(1)、「子どもにやさしいまちづくり」というところでは漢字になっていて、所々でひらがなの「こども」と漢字の「子ども」が出てきていて、そのところで少し目がチカチカするというようなところが、どうしても感じてしまうところでした。このあたりは恐らくこちらが意図している統一性と、見る側にとっての統一性が違って、見る側にとってはわかりづらいのではないかということで、改めて、誰が読んでもわかりやすい表記の方が良いのではないか思いました。

また、基本目標5のところ防災について記載がありますが、実は毎日自分の携帯に富谷市からのクマ目撃情報などが出ているのを確認していて、そうした情報は非常にありがたいと思っております。先日、雷が部活動中の生徒に落ちてしまったことによって重症化したとか色々な問題があります。実はこの富谷市は、そういう情報発信も含めてすぐに対応して下さっていることを考えた時に、「安全安心で誰もが暮らしやすいまち」という中に、富谷市が取り組んでいることがしっかりと書き込まれてあっても良いのではないかと思います。例えば、「情報をしっかりと発信しています。これからも発信していきます。」ということがこの中に書いてあるとすごく良いのではと思います。本当に身近なことなので、私たち学校関係でも、その情報に応じて、場合によっては放送で生徒に伝えたりしています。日常の中でも大きな災害だけではなくて、イベントなどそういうことについても発信すること、そしてこれからも発信していくというようなことを1つ盛り込んでおいてはいかがかと思ひます。

#### (風見会長)

ありがとうございます。「子ども」の表記については条例等の表記がある場合は別として、ひらがなということでよろしいでしょうか。事務局から何かございますか。

#### (事務所)

固有名詞の「子どもにやさしいまちづくり」では漢字の「子」が使われていますが、一方で、こども家庭庁では「こども」の「こ」はひらがなの「こ」を推奨しておりますので、事務局でも悩みながらも現状では両方とも使っているところですので。わかりにくいというご意見がありましたが、見る側にどう伝わるかということも大事ですので、この場でしっかりとしたお返事はできませんが、検討させていただきたいと思ひます。

#### (風見会長)

その悩みが出てしまっていると思ひます。条例の名前や固有名詞でない限りは、ひらがなで統一して良いのか。そのあたりは宿題ということで、ご指摘ありがとうございます。他に何かございますか。

### (若生市長)

ユニセフでは「子どもにやさしい」の「子ども」を漢字の「子」にしていることから、富谷市でも漢字にしています。

### (風見会長)

それでは、そのあたりは市内でもう一度調整いただきまして。特に意味がなければですが、統一したほうがわかりやすいとは私も思います。他にも先ほど、成澤委員から色使いですとかわかりやすさ、そのあたりについてのお話がありました。これはまだ会議資料ですので大目に見ていただければと思います。デザイナーを入れるかどうかは確認しておりませんが、よりわかりやすいデザインや、字体をどうするか。ゴシックは強いけれども結構読みにくかったり、優しさからすると明朝であったり、そういうことも含めて、もう少しデザイン性の細部を出していく時に、また改めてご検討いただくといいことではないでしょうか。色使いも大事ですし、やはり見やすさ、読みやすさについて繰り返し委員の皆様からご意見が出ておりますので、ご尽力よろしくお願ひします。ありがとうございます。それでは、菅原委員お願ひします。

### (菅原委員)

富谷市社会福祉協議会の菅原です。お願ひいたします。改めて委員の皆さんの意見が反映されている内容になっているなと思ひながら読んでいました。ただ、4ページの基本目標2の公共交通のところですけども、やはり市民の皆さんの生活の利便性や、活動の範囲を広げるといった日常生活の上でも、公共交通の利便性の向上というものは、本当に大事なところであると思ひます。現在、富谷市でも様々な検証をしながら公共交通の課題に取り組みされているというお話もありましたので、「利便性の向上」という一言に尽きると思ひながらも、一言でおさめてしまうのはどうなのか。これからの10年間というところで、もうひと工夫は無いものかと思ひたところでした。

それから、7ページの基本目標7の「協働でつくる持続可能なまち」のところですが、「市民が主体的に活動し、市民が主役のまちを目指す」というフレーズはとても良いと思ひますし、それを基本として、これからまちづくりを進めていくところが十分伝わるのではないかと思ひたところでした。加えて、「市民の意見を市政に反映する」というところは重要かと思ひますけれども、「市民の声を大切に、市政運営に取り組み」と言い切ってしまうとか、市民協働という意味では、市側が市民の声を聞いて取り組みというだけではなく、市民が主体的に「市民自らがまちづくりを考え、行政と一緒に取り組み」ということもすごく大事であると思ひますので、そういった内容が今後基本計画などに落とし込まれてくると良いのではと思ひたところでした。

### (風見会長)

素晴らしいご意見ありがとうございます。確かに読んでみると、これは文責が市になるので、市が主語の書き方になっていると思ひます。やはり、PPP（官民連携）もそうですが、市民と行政が対等で協働で取り組みことですので、「共につくる」であるとか、そのような表現のほうがふさわしいかと思ひます。事務局はそれでよろしいですね。こういったことは、これからどういった形で記載していくのか、まさにこれから基本計画を検討していく中で議論として出てくることだと思ひますので、引き続き審議の中で注目していただきたいと思います。今回、若生市長は新公共交通の施策をしか

りと打ち出されておりますのが、その大きな一歩を総合計画で踏み出すことになるのではと思っておりますので、そのあたりは最後にまとめて若生市長からご意見いただきたいと思っております。事務局から補足はありますか。よろしいですか。それでは続けます。富田委員、お願いします。

#### (富田委員)

富田です。お願いいたします。資料を読ませていただいて、基本構想の基本理念にある言葉が美しく、優しく感じました。これが更にどのような施策になっていくのか楽しみにしています。特に関心があるのは「ごみの排出抑制と再資源化」というところです。他の施策も全てそうかもしれませんが、市民一人ひとりがどんなことをするのかということにもつながりますので、特にこの点はこれから自分の生活にどのように直結していくのか注目しています。

今、ホットな病院の話題も少しだけよろしいでしょうか。私は明石台に住んでいますが、計画どおりに総合病院が明石台にできるとすると、例えば「とみやど」や、今作っている図書館とは少し特徴が違った人の集まり方と言うか、心や体が病んでいる方が集まってきて、そこで皆さんが治療に励んだりする場所になるということは、地域の人はいかにそれを気を使うと言いますか、やはりそういった人々を迎え入れる立場になってくるのだと思います。市民としての考えですが、病院が来るかどうかはまだわかりませんが、明石台の人たちには、ここも総合病院が来た時にどのようなことを想定して、どのような動き方をすれば良いのかという市民の力のようなもの、地固めのようなことを行政としてぜひ行ってほしいと思います。それこそ、先ほど、仙台との話もありましたが、仙台市対富谷市といった話は本当にやめてほしいと思います。マスコミを見ていると、いやいや違うと感じます。明石南に住んでいる人も病院に来るかもしれないし、私たちも八木山地区の住民の方から色々と学ばなければならないこともあると思いつつながら報道を見ていました。ここにどんな病院が来るのか、私たち迎える側はどのような姿勢でいなければならないのか、「来る」「決まる」前に少しでも話し合いがあったら良いのではと思っております。よろしく申し上げます。

#### (風見会長)

ありがとうございます。若生市長には最後にまとめてお話をいただきたいと思っております。確かに公共施設や産業立地も含めて、市政の中での取組がどれだけ市民に開かれていて、一緒に議論していくのかということが市民参加の基本ですので、今、富田委員がおっしゃったとおりで、どんな病院が立地するにせよ、愛される施設になるためには、市としてはぜひ市民を巻き込んで、どのように協働ができるのかということに尽きると思っております。そういった意味では様々な可能性があると思っておりますので、話し合うような試みにもぜひ取り組んでいただければと思っております。また、政策決定のプロセスについては、本日この総合計画審議会の場に中学生のお二人がいるように、広く、多元的な市民参加をお願いしたいと思いますので、若生市長も事務局にもそのような場を作っていただけるようお願いしているところです。よろしくお願ひしたいと思っております。では、村上委員お願いします。

#### (村上委員)

皆さんの意見を、このように総合計画の案にまとめていただいたということで、また確認をさせてもらいましたが、見やすくなって、すごく良い感じになっていると思っております。私たちの意見だけではなく、市民の人たちからのアンケートがあって、それがまた市民力の1つとして、いろんな方々が

この自分の住んでいる富谷市に魅力を感じながら意見を持っていて、10年後、20年後にこうなってほしいっていうものがたくさん出てきたと思います。先日、その意見を見せてもらった時に、とても意外なところもありましたし、逆に「すごく富谷市を愛する市民が多いな」と感じたところでもありました。富田委員からも総合病院の話がありました。土地などの準備はできていても、迎え入れるという部分ではこれからだということで、東北労災病院が断念したことはしょうがないところもありますが、これからだというように、病院を迎え入れるために逆にタイミングとして捉えてやっていこうという気持ちになるのではないかとプラスに考えています。

それから、将来人口については、やはり人口を増やすための施策を考える必要があると思います。私個人としては、このまま人口が8万人まで増えるのではないかと思います。富谷市は他から見てもすごく魅力的に見えますし、先ほどアグレッシブという言葉もありましたが、そのように見られているということはひしひしとすごく感じています。みんなでまとまっていて、いつも色々なことをやっていて、発信力が高いまちだと見られていると、私自身としては自負しています。その上で、注目を浴びているからこそ、市民一体となって、そして行政と一緒に育んでいきながらまちを大きくしていくことが富谷市の楽しみだと思います。その時に、私としてはやはり緑と自然の中にまちがある田園都市構想、住宅地もありながら自然と共に生きていける、そして心も健康になるまち。そういう部分では欠かせないものが森林だったりすると思いますので、その森を大事にしていくということは掲げていきたいと思っています。これは自然環境という部分になるのかもしれませんが、文言については作ってくださる事務局の皆さんにお任せしたいと思います。誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生きる、生き生きとして暮らすためにということで作っていらっしゃると思うので大丈夫だと思います。

#### (風見会長)

ありがとうございます。まず、富谷市の魅力は何かということですが、私も色々な市町村の審議会会長をさせていただいて違いを感じるの、やはり「気が良い」というところです。若生市長にも、この市庁舎もとても「気が良い」と感じるという話をよくしているのですが、この場所に来ると「気」が上がると感じています。「気」というものは日本の伝統的なエネルギーで、元気の「気」もそうですし、大気の「気」もそうですし、景気の「気」もそうですけれど、「気」が良いと景気も良くなるはずなので、「気」とは何かと考えると皆さんのエネルギーや情熱、志だと思います。そういったことで、若生市長のリーダーシップのもとで頑張ってまちを作ってこられたと思いますし、参加する市民の皆様の元気が集まっているのだと思います。ですので、富谷市は市民の意見をよく取り入れながら大きくなってきたのだと思います。そこが最も大切で、それは富田委員の言葉にもありましたとおり、しっかりと市民の声が届く、市民の夢が実現できるようなまちであることが重要だと感じます。市民力を育てるということはなかなか大変なことで、そういう意味では、市民力はみんなで守って作っていかねばなりません。特に森の自然を守ることは、村上委員の役割ですので、私も一緒に頑張りますけれども、大亀山森林公園の再整備も第二弾を建設部門にお願いしているところですので頑張ってください。本当に市民の力というものは、市民の中に夢が出来て、それが実現することだと思いますので、ぜひ引き続きよろしくお願いします。それでは、小松委員をお願いします。

### (小松委員)

もうこれ以上私の頭から出るものがない位、ものすごく素晴らしいと思います。ただ1つ、水について、基本目標2の中に「安全安心な水の安定供給と衛生的な水環境」とありますが、たまたま横浜に住む私の娘から「富谷市は蛇口を捻って飲む水が美味しいよね」と言われました。横浜では水を買って飲むことが普通なのですが、「美味しい」と言われたのですごく良いことだと思いつつ読んでおりました。

それから、基本目標6の中に、自然環境を守るためにも生物多様性への理解促進とありますが、住宅を増やしたり、自然を削ったりすると、どうしても熊や猪、狐、狸、ハクビシン、野ウサギが出てしまい、古い農家の人たちみんなにしわ寄せが来てしまっています。やはり野生動物の住むところなくなるくらい開発されてしまっているのではないかという、私たち農家にとって心配な話が多々あります。そのあたりは富谷市でも考えているとは思いますが、太陽光発電についても再生エネルギーとして導入することに関しては良いけれども、その開発に向けての自然、環境への意識の部分については少し心配だと、私としては思うところがあります。このあたりは理解促進を図るということも大事ですが、もう少し開発に向けて生物たちと共存できるような取組を何かしら考えていただきたいと思っています。

### (風見会長)

ありがとうございます。今のテーマはとても本質的なテーマで、1992年に地球サミットがあった時に「持続可能な発展」が世界の大きな目標になりました。その時にサステナブルには、経済と環境と社会の3つの要素があると言われたのですが、その3つの要素を同時共存させるまちづくりが「持続可能なまちづくり」で、それは今、富谷市が目指していることだと思います。ですので、環境を守りながら経済はどのように発展させるのか。昔、20世紀の時代には環境と経済は対立概念であったわけですが、今は科学技術も発展してきたこともあり、例えばバイオマスや自然エネルギー、そういったものも含めて時代は変わってきておりますので、そのあたり持続可能な社会を作るということをまちづくりにどのように落とし込むのかということをもう一度見直していただきたいと思っています。我々が経済や環境というものを両立させることが可能で、社会も存続させることができるということをまずはしっかりと宣言して、そこで政策を見ていかないといけない。そういう意味では時代が変わったと思いますし、取り組むことは可能ですので、政策全般を持続可能性の観点から見直してブラッシュアップしていただきたいと思っていますので事務局、よろしくお願いします。大変素晴らしい意見です。総合計画のような本質的な10年の計を考える、100年のうちの10年の計を考える時にはその部分の点検が重要だと思います。今まで矛盾していたもの、相反していたものが共存できる時代だと思いますので、引き続き頑張ってください。それでは、増田委員をお願いします。

### (増田委員)

素晴らしい基本構想、方向性の案、ありがとうございます。前回、基本目標の文章のセンテンスが少し長いので読みづらいと発言したものの、基本目標全体の話になるのでどうなるのかと思っていましたが、本当に全体にわたって読みやすくなりましたし、単語1つだったところも、その前後で流れを作っていただいたことですごく頭に入りやすくなったと感じて、感謝しております。そうやってセンテンスや単語を考えることで、作られた行政の皆様も自分たちがやろうとしていることが深められた

のではないかという印象も受けました。私は、この総合計画審議会での話合いや皆さんの意見、行政の方の努力があまりにも嬉しくて、審議会が終わるたびに周りに「良い感じなんだよね」と話していました。そうしましたら、実は私が代表している成田マルシェで勝手に田園都市計画という企画書を制作していたのですが、本日出来上がりまして、ここに出来立てホヤホヤの資料があります。表には私たちの思いを代弁するような美しい詩、「世界は美しい」という詩になるのですが、まずはその詩に代弁していただき、裏には想いであるとか期待できること、活動プランが書いてあります。活動に期待できることとして、もちろん田園都市をみんなで意識すればまちは美しくなるし、地域への愛着も湧いてきますけれども、庭が縁側代わりになって交流も生まれて、それによって防犯にもつながるし、安全安心にもなるし、家に閉じ込めりの人が土仕事、畑仕事、庭作りをすることで健康づくりにもなると。実はこの田園都市計画というものを深く考えると全てにつながっていて、挙げたら切りがなくて、書き切れないのですごく絞って、うちの事務局長が書いてくれたのですが、ようやく絞ったという感じでした。全てにつながっているという意味では、人口6万人のところでお話が出ていましたけれども、私としては次に富谷市に住みたいと思う人が列をなして待っているような、環境問題とかも含めて考えると自然は残したほうが良い部分がありますので、開発を続けて人口が増えていくというよりは「空きがない」「空くのをみんなが待っている」というような富谷市になったら素敵だと思います。先ほど、菅原委員から市民と行政の協働を謳っても良いのではという発言がありましたけれども、まさに私たちのこの田園都市計画による取組第一弾を今週にも開催することにしてしまして、スタッフの実家のバラの庭を見に行くことになっています。こんなことをしています、あんなことをしましたということは行政に勝手に報告させていただいて、市民も頑張っているなど行政の方の励みにもなればと思っております。後ほど、若生市長と風見会長にはこの田園都市計画をお渡しさせていただきたいと思っております。

#### (風見会長)

素晴らしい構想を宣言いただきありがとうございます。市民力があるということは、まさにこうした取組ですので。市民が様々な行動を取りながら、それが行政の方をむしろ刺激して、行政と共に取り組むということ。今までは行政が先に計画を作っていましたけれども、市民からどんどん計画が上がってくる、こういう場や円卓会議のようにフラットな形で一緒に施策について議論するということが本当に正しい形ですので、それを体現していくような発表であったと思います。それからガーデンシティについても、本当に良く理解されておられます。縁側というものは、家という人間の空間と、自然を合わせるインターフェースになります。例えば、土間も農地から住宅を合わせる場所ですし、それは田園都市の概念そのものになります。田園都市をテーマに講演いただけるような成長ぶりで大変嬉しく思いますけれども、ぜひ田園都市をそれぞれの皆さんの中で具現化していただいて、自然と人間がどのように共生できるかという本質的なテーマですので、人間が生きるためには自然がなければいけない、それをしっかりと皆さんの手で実現していただきたい。富谷市は本当に田園都市に相応しいところですので、ぜひ邁進してもらえればと思います。ありがとうございます。それでは、新藤委員をお願いします。

#### (新藤委員)

行政区長会の会長の新藤でございます。私の立場で少しお話したいのですが、資料の5ページ、基本

目標4に関する件ですけれども、最近、犯罪が多発する殺伐とした時代です。そこで私の立場から申し上げますと、世代、立場を超えた多様な人々がつながり合える独自のアイデアというものが町内会には必要だと思います。例えば、町内会長杯の女子バレーボール大会やグランドゴルフ大会、春の寄せ植え教室などを開催しています。春の寄せ植え教室は女性の皆さんにご案内し、いつも100人以上が参加しています。それから、お正月用のフラワーアレンジメント教室などを開催していますが、その時に、社会福祉協議会の職員の皆さんと防災知識の講習会も一緒にやっています。そういう機会に町内会として、社会福祉協議会からのご協力をいただいて防災の講話を聞き、皆さんと一緒に共同で防災について話し合いをします。そうした住民と触れ合う機会というものは、これからますます増やしていく必要があると思います。町内会として何かを企画した場合に、町内会と行政からの助成や社会福祉協議会からの支援というものをどうやってマッチングしていくのか、工夫していかなければならないと、町内会の会長として、また行政区長会の代表として、そういう気構えで49の町内会をこれからまとめていこうと思っています。本当に今、殺伐として人間と人間の触れ合いが少なくなっています。ですから、こうした取組を町内会単位でもっともっと強烈に深めていく、そうしたアイデアをこれから皆さんと出し合いながら、人と協力しながら、是非とも住み良いまち富谷市を発展させていきたいと思っています。以上でございます。

#### (風見会長)

ありがとうございます。何よりも基本はコミュニティです。コミュニティというのがあって初めて未来がありますので、引き続きよろしくをお願いします。また、事務局でもコミュニティの部分についても、しっかり強化していくように、もう一度見直していただければと思います。

それでは、一巡しましたけれども、もう一言どうしてもという方はいらっしゃいますか。大丈夫でしょうか。はい、ありがとうございます。また、この場に限らず、こういうことを思いついたということがあれば、事務局は大歓迎だと思いますので、是非、電話でも立ち話でも、メールでもよろしくをお願いします。

それでは、ここまで議案1、2に関しては、特に基本構想について一通りご意見いただきました。本日、新たに出てきた部分もありますので、そちらにつきましては、また事務局で議論いただいて、次回は答申になりますので、審議会の前に皆さんに資料を配付するような形で確認をいただきたいと思っています。そのあたりの確認をいただきますが、一応議論としてはここまでになりますので、事務局で修正ができましたら、また、皆さんのご意見をいただき、答申に向けて進んでいきたいと思っています。また、基本計画はまだ議論しておりませんが、重点プロジェクトとして様々、楽しみなものも出てきているはずですので、私も内容を少しずつ拝見していますけれども、まだまだ8月、11月までは時間がありますので、その点につきまして皆様からも、こういうところを重点的にやるべきだといった議論があれば事務局に訪ねていただければと思います。また、国土利用計画も11月には出てきますので、まずは概要をご覧くださいければと思います。

### (3) 今後のスケジュールについて

#### (風見会長)

それでは議題の3つ目、(3) 今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

## (事務局)

それでは、全体のスケジュールについて、ご説明させていただきます。資料4をご覧ください。こちらは現時点での予定としてお示ししておりますが、まず、本日、5月19日が令和7年度第1回目の審議会となっております。そして、第2回審議会を8月中旬から下旬あたり、お盆明け以降と記載しておりますが、お盆を除いた期間で8月中に開催できるよう現在調整しております。その際に本日いただいたご意見を反映させた上で、基本構想について答申をいただく予定としております。また、前期基本計画案と国土利用計画案についてもお示ししたいと考えております。審議会より答申をいただいた後に、議会への報告、9月から10月にはパブリックコメントと市民参加型事業の実施についても予定しております。そして、11月の第3回審議会において、基本計画の答申と国土利用計画案の審議等を予定しております。続いて、12月には議会定例会へ基本構想の上程を予定しております。当初、9月議会での上程を想定しておりましたが、基本構想だけでなく、基本計画の具体的な施策についてもご説明した上で上程する必要がありますことから、12月へ後倒しさせていただいております。令和8年2月には、第4回審議会において、国土利用計画の答申をいただき、国土利用計画については、3月の議会定例会で上程する予定としております。スケジュールについては、以上でございます。

## (風見会長)

ありがとうございます。ご覧いただきましたとおり次回の審議会は8月頃ということですが、ここで基本構想の答申ということになります。基本構想については、ここで固めてさせていただいて基本計画に入る。そして9月、10月にはパブリックコメント、市民参加型事業がございますので、審議委員の皆様におかれましては各界の代表者ですので、ぜひ広くお声掛けをいただきましてご意見を招集できるようにお願いしたいと思います。そして2年間ということでしたけれども、あっという間に令和7年度になっていきますが、来年の2月の審議会を経て、議会に上程して、最終的に総合計画等が固まるということで、2年間のお務めが終わるわけです。残り1年間、とても重要な基本計画の中身の話が出てきます。また、市民に対する啓蒙流布をしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。スケジュールについては何かご質問ありますか。よろしいですか。

それでは、今日全体の議論を今終えたところですので、本日しっかりと議論をお聞きいただいた中学生のお二人からご意見をいただいた後、若生市長にまとめてご意見をいただきたいと思っております。聞いているだけで、多分早くお話ししたいと思っておりますが、忌憚ないご意見、感想でも、何か思いついたことでも結構ですので、お話いただけたらと思っております。それでは、お願ひします。

## (オブザーバー①)

本日は、このような会議に参加させていただいて、本当にありがとうございます。はじめに総合病院の話がありましたが、富谷市の良いところだけではなく、改善点についてもしっかりと目を向けているところや、10年後の未来を想定した話し合いが進んでいることがわかり、「住んでいるところが富谷市で良かったな」と思ったりしていました。中学生の目線から1つ申し上げますと、地域の交流がやっぱり少ないと思います。大人や目上の方と関わる機会が本当に少なく、関わり方がわからないという子どもたちが多くいるので、基本目標4にあるように世代間が交流する機会などを充実させてほしいと思います。また、富谷市は自然が他の地域よりもたくさんあって良いと思うので、これからも続いていけば良いと思いました。本日参加して感じたことや考えたことを振り返って、世代間の

交流する機会が増えることは、やはりこれから富谷市を支えていく子どもたちの人間性が豊かになることにつながると思うので、自分もそういう機会があれば色々と挑戦して、これからのことに生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

#### (風見会長)

すごく素晴らしい、未来に向けた力強い言葉で、我々に対するエールでもありますし、約束の言葉として受け止めました。本当に地域との関わり方をしっかりとわかりやすくするということはとても大事なことで、富谷市でも取り組んでいることですので、そういう機会、参加の場が増えると思いますので、積極的に政策に参加いただければと思います。ありがとうございました。続いて、お願いします。

#### (オブザーバー②)

このような会議の場に参加させていただき、本当にありがとうございました。富谷市でこのように計画を立てて話し合っているのを見て、素晴らしいし、すごいと思いました。本日、見聞きしたことを通じて、これからも自分の中でも何か出来ることがあった場合には色々と積極的に参加していきたいと思いました。ただ、1つだけ前々から思っていたことを申しますと、富谷市の地図や道路のシンボルにもあるように、富谷市はマーチングのまちとして「とみやマーチングエコーズ」や「とみやマーチングフェスティバル」、そして小学校ごとのマーチングバンドがあると思いますが、それに対しての記載がこの計画の中に全くありません。マーチングは富谷市の魅力の1つだと私は思っていますし、すごく音楽も大好きなので、ぜひ記載してほしいと思います。また、記載するのであれば、もう少し小学校への支援、特に小学校のマーチングバンド、金管バンドへの支援をお願いしたいです。楽器などの備品はもちろんのこと、人材、教育、小学生に教える講師の先生方の支援なども今は少なく、親の会などに支援してもらっているところが多いので、ぜひそういった支援を期待しています。これからは芸術、音楽といった面で富谷市が良くなればよいなと思っています。本当にこのような機会を設けていただき、ありがとうございました。

#### (風見会長)

音楽は大切ですね。それも富谷市の特徴の1つだと思いますので、頑張ってもらいましょう。それでは、本日の審議会の議論と、中学生のお二人の意見も踏まえまして、若生市長からお話をお願いします。

#### (若生市長)

本日は、本当に素晴らしいご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。今日お示したこれまでのご意見も踏まえて、更に皆様お一人お一人から本当に貴重なご意見をいただきまして、更に素晴らしいものになると思いますので、本当に心から感謝申し上げます。そして、只今、中学生を代表してお二人から本当に素晴らしいお言葉いただきました。ありがとうございます。「富谷市に住んで良かった」という最高の褒め言葉をいただいて本当に嬉しく思っていますし、また、「富谷市がもう何十年とシンボルとして大切にしてきたマーチングをこの中にしっかりと入れ込む必要があるのでは」というお話がありました。我々は富谷市がマーチングのまちであることは当たり前のことな

ので、あえて何か表記する必要はないと思っていましたが、逆に「だからこそ表記しなければならない」ということを本当に気づかされました。本当に素晴らしいコメントをいただきまして、ありがとうございます。我々は、こんなことを言ったらなんですけれども、50年先は恐らく生きていないのですが、50年先はお二人が間違いなくこのまちの主役になっていると思っておりますので、そういう意味では、本当に未来に向けて改めて期待が持てると思ったところでございます。

今日は冒頭に総合病院の話をさせていただきましたが、途中でも基幹公共交通についてご意見がありました。今回の市民アンケートでも73.3パーセントの人が望んでいる政策でありますので、今年度は都市型ロープウェイについて導入が可能かどうかも含めて、導入可能性調査が始まるところでございます。ある程度、導入可能性も含めて結果を待って、なるべく今回の構想の中にも含めたいと思っております。今回調査する都市型自走式ロープウェイは、今かなり注目をいただいております。調査の委託事業者からは、法的位置付けについて国土交通省と協議していると伺っております。国土交通省では、軌道系の新しい基幹公共交通として、1つの候補として取り上げられたというところの一報をいただいたところでございます。この都市型ロープウェイが新しい基幹公共交通として富谷市に導入することができたら、公共交通の課題が解決する1つの大きな力になるだろうと思っております。また、病院問題につきましては富谷・黒川地域の課題でありますけれども、受け入れる明石台地区の皆様にご意見を共有する機会として一度だけ説明会を行いましたけれども、やはりもっとそのあたりは大切にしていかなければならないと、明石台在住の富田委員のご意見で本当に気づかされたところでございますので、大事にしていきたいと思っております。

最後に1つだけ。先週14日に、東京の東京ミッドタウン八重洲で「地方創生ベンチャーサミット2025」が開催されました。今回は第10回目の開催でありましたが、基調講演が石破総理大臣でした。私もその後のセッションに登壇しておりますが、なぜ今回石破総理大臣が基調講演なされたかということ、1回目のサミットが開催された時に初代の地方創生担当大臣だったのが石破総理大臣でありまして、その1回目に基調講演をされたということで、今回はそのご縁で10回目の開催にあたり、石破総理大臣が自ら基調講演をされたということでした。その中で面白い話をされていまして、今石破総理大臣が「楽しい日本」という言葉を掲げておりますけれども、これは実はあの堺屋太一氏が最後に残された本の中で、最後に残した提言であると。この「楽しい日本」とはどのように考えればよいのだろうかというところから話が始まりましたが、確かに戦後の日本は、まずは強い日本、そして豊かな日本を目指してきたと。戦後、敗戦して強い日本、そして豊かな日本という言葉はわかりやすく、その言葉で国民が奮い立たされ、そして経済、いわゆる高度経済成長を含め、豊かな日本を築いてきた。その背景にはやはり常に官主導で、いわゆる経済対策であったり教育であったり、産業政策にしてもすべて官主導であったわけです。ところがこの「楽しい日本」を実現するには、官主導ではもう限界に来ているということでした。石破総理大臣が今回言っていたことは、この「楽しい日本」とは、まずは今日より明日が良くなるとみんなが思えること。そして、お互いの多様性や価値観を認め合って、一人ひとりが生き生きと生活できる、生き生きと生きることができる日本が「楽しい日本」ではないかというような話でした。その話を聞いていて、これはまさに市民が主体的に立ち上がって、生き生きと活動することが「楽しい日本」ではないかと思いました。そういう意味では、富谷市がどうして様々な自治体評価ランキングで連続して東北1位になっているのか。それを色々と考えた中で、私は「富谷市の強みは市民力、市民の皆様が様々な活動を生き生きとされていること」だと思っておりますので、そこにつながりました。まさにそういった意味では、富谷は今「楽しい富谷」に向かっているという

ことを、今回石破総理大臣のお話を聞いていて思いましたし、「楽しい日本」のモデルとして「楽しい富谷」が作れるのではないかと思ったところがございます。うまく伝えきれなかったかもしれませんが、そのように強く感じたところがございます。私は、「楽しい日本」の1つの大きなモデルとして、先行して富谷市が「楽しい富谷」を目指したい。新しいこれからの富谷市の背景には、やはり田園都市があり、本日までいただいたような色々な意見が一つ一つ整った中で、市民一人ひとりが「楽しい富谷」だと、今日より明日が良くなる、夢を持って日々を過ごせる、そのような富谷市を目指すことが「楽しい日本」なのかなと思ったところがございます。市民力の高さがある、そして行政はそれをサポートする側に徹する時代だろうと私は思っているところがございます。引き続き、よろしくお願い致します。

### (風見会長)

ありがとうございます。最後にまとめさせていただきます。本日は、お越しいただきありがとうございます。また、中学生のお二人にもご意見をいただき、ありがとうございます。子どもたち、若い人たちというのは、ある意味自分の感じたことをそのまま言葉にできる、それが一番大事なことだと思いますし、それはこうした政策を考える前に届けていただきたいと思いますので、中学生のお二人は、学校に戻ったら「若い人たちの意見を富谷市は聞いてくれる」ということを周りの人にも伝えていただきたいと思います。小中学生、高校生の皆さんの意見が政策の中で入る時代だと思います。これは市当局の皆様をお願いしておりますし、円卓会議でも話題になりましたので、何か具体的に計画の中に盛り込めないかと考えております。後ろにお座りの各部長にもお願いしているところですし、そういった言葉も形になると思います。それから若生市長から石破総理大臣のお話がありました。石破政権の意義については、私も色々考えるところがありますが、石破総理大臣は最初の地方創生大臣という運命の人であるということは、石破総理大臣もよくおわかりになっていると思います。岸田政権の時にデジタル田園都市を掲げられました。「真の地方の時代」というものは大平政権の時代からの念願でありましたが、それが岸田政権で一步進んだと思います。その後、石破総理大臣になっておりますが、石破総理大臣は地方創生をずっとやりたかったことだと思いますので、具体的に地方創生を具現化させるための施策や、特に財政支援も含めて、人材の支援も始めましたけれども、若生市長にもぜひ永田町、霞ヶ関に挑んでいただきまして、しっかりと富谷市のこれからのまちづくりに寄与していただければと思います。私も若生市長のサミットでのご活躍は拝見しておりました。とても良い時期に、富谷市の市民力の高さやアントレプレナーシップをしっかりと全国に広めていただいていたと思っておりました。ありがとうございます。

私から最後に。私の研究室ではちょうど市民参加のまちづくりや合意形成論をやってきました。今、何が政策で大事になっているのかと言いますと、3つありますが、1つは科学性です。EBPM、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキングという言葉もありますが、科学的な根拠に基づいて政策を作るということです。データは万能ではありませんが、まずはしっかりとデータに基づいて科学的に政策を作ることが大事で、もちろん直感も大事ですが、論理的に政策を作ることによって説明しやすくなる、皆さんにとってもわかりやすくなるということです。2つ目は、透明性です。透明性とはアカウンタビリティ、説明責任があるということなので、行政の皆さんは日々感じておられることだと思います。政策を作るという意味では、結果を含めて説明責任がありますので、これは我々審議会にも責任があるということです。説明責任としっかりと発言を実現していく責任があります。それを透明に見せなけ

ればなりません。そして最後の3つ目は、民主制です。やはり市民参加です。皆様の意見がしっかりと届いているのかということ、それに関して富谷市は本当に市民の声を大切にできており、それが今の富谷市の力を作っているのだと私は確信しています。若生市長が市民力とおっしゃっているところかと思いますが、引き続き全市民が市民参画、次は市民協働からの市民共創ということで、市民と行政と一緒にワンチームでまちを作っていくということが大事だと思います。そのためにこの総合計画がありますので、あと約1年間かけて、しっかりと市民が参画できるようなプランにしていくということが最も大事であると思います。先ほどの石破総理大臣の話に戻りますけれども、恐らく若生市長がおっしゃりたかったことは、今まで強い大国主義があった。大国主義というものは、ともすると戦争まで生んでしまう位に強い国家を目指すことなのですが、これからの時代は、しなやかな国家、優しさであるとかそういった弱さを知ることだと思います。市民の皆様の身の丈と言うと小さく見えてしまうかもしれませんが、市民の力で自分の地域の大切な資源を生かして、しっかりと持続可能な社会を作ることが出来ればと思います。ある意味で都市は小国です。実はレジリエンスは、強靱さ、強いと訳されますが、むしろそれは間違いで、しなやかさの方が重要で、柔軟であるということです。すごい風があったら、電信柱は倒れるかもしれません。木ももちろん痛んでいけば倒れますが、ものすごくしなっけていても倒れずに立っている。あれがしなやかさになります。そういった意味では、柔軟な都市というものは都市の細胞である一人ひとりの市民が元気であることになります。「気」の良い富谷市ですので、しっかりと皆様の元気を集めて、素晴らしいまちづくりを続けていければと思いますので、ぜひ引き続き若生市長のリーダーシップをよろしくお願いします。また、審議会の皆様には総合計画を広めるためにしっかりと広告塔、またはトップランナー、プレイヤーになっていただければと思います。事務局では、本日様々のご意見が出ておりますが、これだけ活発な審議会はなかなかないと思いますので、作業は大変だとは思いますが、嬉しい悲鳴を上げていただきながら、次回の審議会までに基本構想の仕上げと基本計画の策定、国土利用計画案の取りまとめをよろしく願いたいと思います。それでは、少し時間を過ぎてしまい大変失礼いたしました。今日も活発なご議論ありがとうございました。以上で議事を終わりたいと思います。ありがとうございます。

## 5 その他

※事務局より諸連絡

## 6 閉会